

2年 道徳の年間指導計画例 (2018年～2019年)

月	教材名〔主題名〕 内容項目(主・関連)	主題のねらい	展開の概要	関連・連携のための指導計画例
4月	1. 学校 大すき 〔学校 大すき、先生 大すき〕 【主】C よりよい学校生活、集団生活の充実 【関連】B 感謝	◎先生や学校で働く人々を敬愛し、学校で働く人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくしようとする。 【理解、判断力】 学校で働く人々や上級生は、自分たちが楽しく充実した学校生活ができるように、いろいろなことを一生懸命にしてくれていることが分かる。 【心情】 学校で自分たちの生活を支えてくれている人々に対して、すばらしいなあ、ありがたいなあという気持ちをもつようになる。 【実践意欲と態度】 学校生活が楽しく充実したものになるように、自分たちにできることは何かを考えて、実行しようという意欲をもつ。	1 自分たちは、学校でどんな人のお世話になっているかについて話し合う。 2 「学校 大すき」を読み、学校のよさについて考える。 3 自分たちにできることを考え、発展的な活動について話し合う。	○道徳の授業 ・「学校 大すき」を読み、学校のよさについて考えさせる。 ○学級活動 ・もっと楽しい学校やクラスにするために、自分たちにもできることを話し合い、実践させる。 ○日常生活 ・学校でお世話になっている人を探させる。 ・学校のよいところについて、家の人に聞いてまとめさせる。
4月	2. 学校たんけん 〔あいての きもちを かんがえよう〕 【主】B 親切、思いやり 【関連】C よりよい学校生活、集団生活の充実	◎幼い人の気持ちや立場を理解しようと努め、幼い人が困っていたら助けたいと願う心をもって親切にしようとする。 【理解、判断力】 幼い人に親切にしようとする姿は、幼い人の気持ちや立場を考えて、幼い人が困っていたら助けたいと願う心から生まれていることが分かる。 【心情】 幼い人の気持ちや立場を考えて、幼い人が困っていたら助けたいと願う心から、親切にしようとする姿に心が動く。 【実践意欲と態度】 幼い人が困っていたら助けたいと願う心は自分にもあることを自覚し、幼い人に親切にしようとする。	1 入学してきた1年生の気持ちを考える。 2 「学校たんけん」を読み、親切について話し合う。 3 授業で学んだことをまとめ、生活に生かしていけることを考えて発表する。	○道徳の授業 ・「学校たんけん」を読み、親切について考えさせる。 ○生活科 ・道徳の授業で学んだことを意識させながら、1年生に対する学校案内を行わせる。または、1年生と交流する機会を設ける。 ○学級活動 ・1年生が困っていることを調べ、自分たちで解決できることはないか考えさせて実行させる。 ・実行した感想を記録させ、帰りの会などで発表させる。
重点主題：まい日を きもちよく				
4月	3. できるね ポンタくん 〔きもちの よい 学校の せい かつ〕 【主】A 節度、節制 【関連】C よりよい学校生活、集団生活の充実	◎健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがまをしないで、規則正しい生活をしようとする。 【理解、判断力】 基本的な生活習慣を身につけることの大切さが分かると共に、学校生活でそのような生活をする秘訣は、節度を守り、節制に心がけ、それを続けることだと分かる。 【心情】 学校生活で基本的な生活習慣を身につけた人に対して、すばらしいと思うようになる。 【実践意欲と態度】 学校生活で基本的な生活習慣を身につけて、規則正しい生活をしようと思い、実行しようとする。	1 身の回りのことができているかどうか、お互いに聞き合う。 2 「できるね ポンタくん」を読み、進んで自分の生活を見直しているか話し合う。 3 学校でやり過ぎないために、自分がやっていきたいことをまとめる。	○道徳の授業 ・「できるね ポンタくん」を読み、学校生活のさまざまな場面で、やり過ぎてしまったらどうなるか、それを改めるためにどうしたらよいか考えさせる。 ○道徳の授業 ・「そこだね ポンタくん」を読み、家庭生活のさまざまな場面で、基本的な生活習慣を身につけるためにどんなことをどのようにしたらよいか考えさせる。 ○学級活動 ・学校生活で、度が過ぎた行動によって困っている問題があるか振り返り、物の管理や安全に関する約束ごとが守られているか話し合わせる。 ○日常生活 ・基本的な生活習慣を身につけるため、どんなことをどのように行うか考えたことを続けるよう促す。
5月	4. そこだね ポンタくん 〔きもちの よい いえの せい かつ〕 【主】A 節度、節制 【関連】A 希望と勇気、努力と強い意志	◎健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがまをしないで、規則正しい生活をしようとする。 【理解、判断力】 基本的な生活習慣を身につけることの大切さが分かると共に、家庭生活でそのような生活をする秘訣は、節度を守り、節制に心がけ、それを続けることだと分かる。 【心情】 家庭生活で基本的な生活習慣を身につけた人に対して、すばらしいと思うようになる。 【実践意欲と態度】 家庭生活で基本的な生活習慣を身につけて、規則正しい生活をしようと思い、実行しようとする。	1 家の生活で、ちゃんとできるようになったこと、うまくできなかったことをお互いに聞き合う。 2 「そこだね ポンタくん」を読み、進んで自分の生活を見直しているか話し合う。 3 家で気持ちよく過ごすためにどうしたらよいか考える。	○道徳の授業 ・「できるね ポンタくん」を読み、学校生活のさまざまな場面で、やり過ぎてしまったらどうなるか、それを改めるためにどうしたらよいか考えさせる。 ○家庭 ・家の生活でできるようになったこと、できなくて困ったことを見つけておこせる。 ○道徳の授業 ・「そこだね ポンタくん」を読み、家庭生活のさまざまな場面で、基本的な生活習慣を身につけるためにどんなことをどのようにしたらよいか考えさせる。 ○日常生活 ・基本的な生活習慣を身につけるため、どんなことをどのように行うか、考えたことを続けるよう促す。
5月	5. げんかんそうじ 〔かぞくの ために できる こと〕 【主】C 家族愛、家庭生活の充実 【関連】C 勤労、公共の精神	◎自分の生活は、家族によって支えられていることが分かり、自分も家族のためにできることを進んで行おうとする。 【理解、判断力】 家族が忙しそうにしている姿を見て、自分の生活は家族によって支えられていることが分かり、自分が仕事を手伝ったのは、家族の役に立ちたいと願う心があつたからだと分かる。 【心情】 家族同士が互いに支え合うことで、明るくなっていく家族の姿に心が動く。 【実践意欲と態度】 家族のために、自分ができることを進んでしようとする。	1 自分の生活を振り返り、家族のよいところを話し合う。 2 「げんかんそうじ」を読み、家族の支え合いについて考える。 3 家の仕事で、自分ができそうなことを考えてまとめる。	○道徳の授業 ・「げんかんそうじ」を読み、家族の支え合いについて考えさせる。 ○家庭との連携 ・保護者に学級通信などで授業の意図を伝え、お手伝いの機会を設けてもらう。 ・お手伝いをしたときの自分の感想や家族の感想を記録させる。 ○学級活動 ・お手伝いをした自分の感想や家族の感想を、帰りの会などで発表させる。 ・授業で学んだことと、実際にお手伝いをしたことや思ったことで重なる部分はないか考えさせ、理解を深めさせる。
5月	6. くるぶたの しっぱい 〔きまりを まもる 力〕 【主】C 規則の尊重 【関連】A 善悪の判断、自律、自由と責任	◎みんなが使う物や使う場所を大切にし、きまりを守って気持ちのよい生活をしていこうとする。 【理解、判断力】 私たちの周りにはたくさんきまりがあり、それを守らないとみんなが困るだけでなく、自分も困ることになることが分かる。 【心情】 自分勝手なことをする人に対して、よくないなあと不快な気持ちももてるようになる。 【実践意欲と態度】 きまりを守って気持ちのよい生活をしようとする。	1 身の回りがある、知っているきまりを、発表し合い、きまりがないとどうなるかを予想する。 2 「くるぶたの しっぱい」を読み、きまりを守らないとどうなるか話し合う。 3 くるぶたへのアドバイスを考える。 4 自分たちは決まりを守れているか振り返る。	○道徳の授業 ・「くるぶたの しっぱい」を読み、きまりを守ることについて考える。 ○帰りの会 ・きまりを守られていなかったことを見つけたら、カードに書いて報告し合う。また、きまりが守られてよかったことを報告させてもよい。 ○学級活動 ・報告があったことについて、どうしたらみんなが気持ちよく過ごせるかを話し合わせる。
5月	7. おもいきって いてごらん 〔あいさつパワー〕 【主】B 礼儀 【関連】A 希望と勇気、努力と強い意志	◎気持ちのよいあいさつができるように心がけて、明るく接する。 【理解、判断力】 あいさつは、時・場・相手によって異なり、その使い分けがあることが分かる。 【心情】 元気にあいさつをすると、自分も相手も元気がわき、お互いに明るく、いい気持ちになることが分かる。 【実践意欲と態度】 自分も元気にあいさつをして、明るく生活しようとする。	1 どうしたらあいさつが上手にできるのか考える。 2 「おもいきって いてごらん」を読み、礼儀正しくすることについて話し合う。 3 上手にあいさつができるために大切なことをまとめる。	○道徳の授業 ・「おもいきって いてごらん」を読み、礼儀正しくすることについて話し合わせる。 ○国語科・生活科 ・「あいさつカルタ」をつくり、そのカルタで遊ばせる。 ○学級活動 ・いろいろなあいさつがあることに気づかせ、「あいさつパワー」で元気なあいさつに慣れさせる。朝の会や帰りの会で継続的に呼びかける。 ・「あいさつが きれいな 王さま」を読み、実践意欲につなげる。 ○家庭との連携 ・あいさつを習慣化するために、保護者会や学年だより、学級通信などで保護者にも協力を呼びかける。

月	教材名〔主題名〕 内容項目(主・関連)	主題のねらい	展開の概要	関連・連携のための指導計画例
6月	8. やさい村の子どもたち 〔すききらいにとらわれないで〕 【主】C 公正、公平、社会正義 【関連】B 友情、信頼	◎自他の違いや自分の好き嫌いとらわれないで接しようとする。 【理解、判断力】 自他の違いや自分の好き嫌いとらわれないで、人と接することのよさが分かる。 【心情】 差別や偏見を避け、公正、公平に人と接することのよさを感じる。 【実践意欲と態度】 自他の違いや自分の好き嫌いとらわれないで、だれとでも分け隔てなく接しようとする。	1 だれとでも仲よくするために大切なことを話し合う。 2 「やさい村の子どもたち」を読み、やさいたちの迷いを通して、だれとでも仲よくするために大切なことを話し合う。 3 仲よくするために大切なことをまとめる。	○国語科 ・金子みすゞの詩「わたしと小鳥と鈴と」などを読み聞かせて、互いの違いやそれぞれがもつよさについて関心をもたせる。 ○道徳の授業 ・「やさい村の子どもたち」を読み、公正、公平についての理解を深め、自他の違いや好き嫌いとらわれないで行動するよさを考えさせる。 ○特別活動 ・だれとでも仲よくできるように作戦を考えて、標語をつくり掲示する活動を行わせる。 ○日常生活 ・公正、公平の視点をもって、互いに気をつけ合いながら、学んだり遊んだりさせる。
6月	9. おとうとのたんじょう 〔いのちのたんじょう〕 【主】D 生命の尊さ 【関連】C 家族愛、家庭生活の充実	◎自分の命は家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分には生きる力があることが分かり、自分の命を大切にしようとする。 【理解、判断力】 名前には家族の願いや思いが込められていることや、自分には「生きようとする力」があることが分かる。 【心情】 自分の命が大切にされ、「生きようとする力」をもって生きていることをうれしく思う。 【実践意欲と態度】 自分の命を大切に、元気に生活していこうという意欲をもつ。	1 命が大切なわけについて話し合う。 2 「おとうとのたんじょう」を読み、命の大切さについて話し合う。 3 命が大切なわけについて分かったことをまとめる。	○道徳の授業 ・「おとうとのたんじょう」を読み、命のもつ「生きようとする力」を家族が喜び、大切に育ててくれていることについて考えさせる。 ○家庭 ・自分の名前の由来を家族に聞いたり、自分の成長を家族に聞いたりする活動をさせる。学年便りや参観日などの場を活用して家庭との連携も図りながら指導を進める。 ○生活科 ・自分の成長を調べてまとめる活動を行う。
6月	10. わたしたちもしごとをしたい 〔みんなのためにはたらく〕 【主】C 勤労、公共の精神 【関連】B 親切、思いやり	◎働けば、周りの人が喜んでくれたり、自分もいい気持ちになつたりすることが分かり、家族やクラスのために働こうと思うようになる。 【理解、判断力】 人のために働けば、周りの人が喜んでくれるだけではなく、自分もうれしくなることが分かる。 【心情】 人のために働くことや働いている人のすばらしさに心が動く。 【実践意欲と態度】 人のためになる仕事を家庭やクラスでしたいと思う。	1 仕事をしているときの気持ちを考える。 2 「わたしたちもしごとをしたい」を読み、何のために仕事をするのかについて話し合う。 3 みんなのために役立つ仕事について考える。	○道徳の授業 ・「わたしたちもしごとをしたい」を読み、働くことのよさについて考えさせる。 ○日常生活 ・考えた、「みんなのために役立つ仕事」を実際にやらせる。 ・やってみたことを、ノートやワークシートに記録させる。 ・続けてやりたい仕事を決めて、がんばりカードに記録させる。 ○学級活動 ・朝のスピーチなどで、記録したことをみんなに発表させる。
6月	11. なかよしでいたい 〔ともだちをしんじる〕 【主】B 友情、信頼 【関連】A 正直、誠実	◎けんかをしても自分の過ちが分かったと改めたいと願う心や、友達と仲よしでいたいと願う心があることが分かり、さらに友達関係を深めていこうとする。 【理解、判断力】 自分にも、過ちが分かったと改めたいと願う心や、友達のよさが分かると仲よしでいたいと願う心があることが分かる。 【心情】 自分の行動を振り返り、過ちを認めて謝りたい、友達と仲よしでいたいと願う、謝りに行こうする姿に心が動く。 【実践意欲と態度】 友達と仲よしでいたいと願う心を大切に、さらに友達関係を深めていこうとする。	1 友達とけんかをしたことがあるか、仲直りをするまでどれくらい時間がかかるか考える。 2 「なかよしでいたい」を読み、仲直りをしようとするだけちゃんの心を考える。 3 授業で学んだことをどのように生かしていくか考え、発表する。	○道徳の授業 ・「なかよしでいたい」を読み、友情・信頼について考えさせる。 ○学級活動 ・友達や自分が過ちを素直に認めて改めることができたエピソードを帰りの会などで紹介させる。 ・友達がいてよかったことや、友達の気持ちや立場を考えて行動したり、されたりしたエピソードを帰りの会などで紹介させる。 ○日常生活 ・自分に過ちがあれば素直に認め、改めようとする態度で生活しようとする。 ・進んで友達のよさを見つたり、友達の気持ちや立場を考えて行動したりしようとする。
7月	12. 三べん かんがえて 〔お金やものつかいかた〕 【主】A 節度、節制 【関連】C 家族愛、家庭生活の充実	◎わがままをしないで、物や金銭を大切に生活しようとする。 【理解、判断力】 物やお金を大切にするには、わがままをせずにがまんする心が大切であることが分かる。 【心情】 物やお金を大切に使うと、よりよく生きることが分かる。 【実践意欲と態度】 無駄づかいをせずに、物や金銭を大切に生活しようとする。	1 無駄づかいについて考える。 2 「三べん かんがえて」を読み、節度・節制について話し合う。 3 お金や物の使い方学んだことをまとめる。	○道徳の授業 ・「三べん かんがえて」を読み、節度・節制について考えさせる。 ○家庭との連携 ・欲しいものリストをつくって、家の人と相談させる。 ・まとめたものを提出させる。 ○朝の会・帰りの会 ・欲しいものリストの結果を報告させる。
7月	13. オリンピックとパラリンピックの はた 〔スポーツでなかよし〕 【主】C 国際理解、国際親善 【関連】D 生命の尊さ	◎他国の人々や文化と、自国の人々と文化の違いが分かり、他国の人々や文化に親しみようとする。 【理解、判断力】 他国の人々や文化は、日本人や日本の文化と違うところがあることが分かる。 【心情】 他国の人々と同じ人間として、その人格を大切にしたいという心が自分にもあることに気づく。 【実践意欲と態度】 他国の人々や文化に、親しみたいと思う。	1 他国について考える。 2 「オリンピックとパラリンピックの はた」を読み、国際理解について考える。 3 他国について語ったり、他国のあいさつの歌をみんなで歌ったりする。	○道徳の授業 ・「オリンピックとパラリンピックの はた」を読み、国際理解について考えさせる。 ○読書活動・日常生活 ・他国について、本で調べたり、人に尋ねたりさせる。 ・調べたり尋ねたりして知ったことを、ノートやワークシートに記録させる。 ○学級活動 ・朝のスピーチなどで、記録したノートやワークシートを発表させる。
9月	14. ビーマンマンとよふかし 大まおう 〔はやね はやおきてけんこうに〕 【主】A 節度、節制 【関連】A 希望と勇気、努力と強い意志	◎自分の健康や安全に気をつけ、わがままをしないで、規則正しい生活をしようとする。 【理解、判断力】 健康で安全な生活をするためには、わがままをしないで規則正しい生活をするのが大切なことが分かる。 【心情】 規則正しい生活をして、健康に暮らすことのよさを感じる。 【実践意欲と態度】 自分の生活を見直し、わがままを我慢して、健康で規則正しい生活をしようとする。	1 早寝早起きをしないといけない理由を考え、教材を読む視点をもつ。 2 「ビーマンマンとよふかし大まおう」を読み、健康と規則正しい生活の大切さについて考える。 3 よふかし大まおうに負けないための作戦を考える。	○学級指導や課外 ・就寝時間や起床時間についてアンケートなどを行い、自分の生活習慣に関心をもたせておく。 ○道徳の授業 ・「ビーマンマンとよふかし大まおう」を読み、わがままをしないで規則正しい生活をするための大切さについて理解を深めさせる。 ○日常生活 ・自分で決めたり保護者と相談して決めたりしたきまりを継続して行うようにさせる。 ○朝の会・帰りの会 ・自分が頑張って実践したことを発表させる。
9月	15. わたしの おじいさん、おばあさん 〔おじいさん、おばあさんの力〕 【主】C 家族愛、家庭生活の充実 【関連】B 感謝	◎祖父母の存在への関心を高め、敬愛し、感謝の気持ちをもつ。 【理解、判断力】 おじいさんやおばあさんは、たくさんを知っていて、自分にできないことができることを知り、人間として立派であることが分かる。 【心情】 おじいさんやおばあさんは、自分のことを考えてくれていることが分かり、感謝の心をもつ。 【実践意欲と態度】 祖父母への思いを伝える自分なりの方法を考え、実践する。	1 P.66を参考にして、祖父母のことを思い浮かべる。 2 「わたしの おじいさん、おばあさん」を読み、祖父母が今日までどんな気持ちで自分たちを支えてくれたのか話し合う。 3 これから、自分の祖父母に対してどんなことをしていきたいか考える。	○生活科 ・「昔遊びを楽しもう」という単元において、お年寄りと触れ合う授業を計画し、自分の祖父母や地域のお年寄りとの交流を設ける。そのときの様子を家庭で話す宿題を出すなどして保護者に話す機会をもたせる。 ・お礼の手紙を書く活動などを取り入れる。 ○道徳の授業 ・「わたしの おじいさん、おばあさん」を読み、祖父母が今日までどんな気持ちで自分たちを支えてくれたのかについて話し合わせる。 ○家庭との連携 ・本時の授業の内容や意図を保護者や学級だよりなどで伝え、授業をきっかけとして祖父母との交流の機会を設けてほしいことを伝える。 ○学級活動・国語 ・敬老の日などに向けて、祖父母への感謝の気持ちを手紙に書く活動を取り入れる。

月	教材名〔主題名〕 内容項目(主・関連)	主題のねらい	展開の概要	関連・連携のための指導計画例
9月	16. ぐみの木と 小鳥 〔おもいやりの ころ〕 【主】B 親切、思いやり 【関連】B 友情、信頼	◎身近にいる人の身のうやや心情に思いを寄せ、温かい心で接することのよさを大切にし、親切にしていこうとする。 【理解、判断力】 友達のことを心配したり、人の気持ちが分かったりして、自分にできることをすることが思いやりであることが分かる。 【心情】 友達のことを心配したり、人の気持ちが分かったりして、自分にできることをする人を見て、すばらしいなあと感じることができる。 【実践意欲と態度】 自分も思いやりの心をもって生活していこうとする。	1 教材についての興味関心をもつ。 2 「ぐみの木と 小鳥」を読み、思いやりの心と行為について考える。 3 本時で学んだ「思いやり」についてまとめる。	○道徳の授業 ・「ぐみの木と 小鳥」を読み、親切・思いやりについて考えさせる。 ○帰りの会・学級活動 ・思いやりのある行動をしていた人を、今日の振り返りの時間などで発表をさせる。 ・思いやりの心をもった人の話を紹介させる。 ○家庭との連携 ・親切にしたり、親切にしてもらったりしたときに、家の人に報告させる。
9月	17. ぼくの まちも、ひかっている！ 〔じぶんの まちの かがやき〕 【主】C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 【関連】B 友情、信頼	◎郷土の文化や生活に親しみ、愛着を感じる。 【理解、判断力】 それぞれのまちには大切に受け継がれているものがあることが分かる。 【心情】 自分のまちのよさが分かると、だれでもそれが好きになったり、大切にしようと思ったりすることを実感する。 【実践意欲と態度】 自分のまちで大切に受け継がれているものを知りたい、大切にしたいと思う。	1 自分のまちにあったらいいと思うものは何かについて話し合う。 2 「ぼくの まちも、ひかっている！」を読み、まちのよさについて話し合う。 3 自分のまちのよさを考える。	○生活科 ・町探検の結果を大きな地図などにまとめる。 ○道徳の授業 ・「ぼくの まちも、ひかっている！」を読み、まちのよさはそのまちを大切にしてきた人々の思いからできていることを理解させる。 ○家庭との連携 ・学年便りなどを活用して家庭との連携を図り、家の人に聞くなどして、自分のまちのよさを見つけたり調べたりさせる。 ○学級活動 ・見つけたり調べたりしたまちのよさについて伝え合い、交流させる。
重点主題：よい こと、わるい こと				
10月	18. くつかくし 〔いけない ことを、見つけよう〕 【主】A 善悪の判断、自律、自由と責任 【関連】A 正直、誠実	◎よいことと悪いことの区別をし、してはいけないことは絶対にしないようにし、よいと思うことを進んで行おうとする。 【理解、判断力】 してはいけないことを絶対にしない理由は、相手や周りのたくさんの人を困らせたり、傷つけたり、嫌な思いをさせたりするだけでなく、自分自身も困るからだという事に気づく。 【心情】 してはいけないことをすると、相手や周りの人以上に自分がいばん嫌で恥ずかしい思いをすることを感ずる。 【実践意欲と態度】 してはいけないことはどのようなことがあるか、生活の中から見つけ、善悪の判断ができる生活をしようとする。	1 してはいけないことやその理由について考える。 2 「くつかくし」を読み、いけないこととそのわけを話し合う。 3 してはいけないことやその理由についてまとめる。	○朝の会・帰りの会 ・「学校のきまり」「〇〇小のやくそく」の資料を読み上げ、よいことと悪いことをしっかりと考えさせておく。 ○道徳の授業 ・「くつかくし」を読み、してはいけないことについて話し合わせる。 ○日常生活 ・学校や家での生活の中で、してはいけないことをたくさん見つけさせる。 ○家庭との連携 ・してはいけないことについて家の人と話し合わせる。 ○道徳の授業 ・「レッドカード」を読み、人としてしてはいけないことについて話し合わせる。
10月	19. レッドカード 〔いけない ことは ぜったいにしない〕 【主】A 善悪の判断、自律、自由と責任 【関連】A 節度、節制	◎よい悪いの判断をして、してはいけないことは絶対にしないようにする。 【理解、判断力】 してはいけないことをすると自分も嫌な思いをすることが分かり、してはいけないことをしないようにする心は、自分の心の中にあることに気づく。 【心情】 してはいけないことをして、相手やたくさんの周りの人、自分自身などを傷つけ、悲しませることはよくないことだと心が動く。 【実践意欲と態度】 自分の絶対しないことを決めて、それを実行しようとする意志をもつ。	1 してはいけないことにはどのようなことがあったか、発表し合う。 2 「レッドカード」を読み、してはいけないことについて話し合う。 3 自分の「わたしはできる」「わたしはまもる」カードを作成する。	○朝の会・帰りの会 ・〇〇小よいこのきまりについて確認させる。 ○道徳の授業 ・「くつかくし」を読み、してはいけないことについて話し合わせる。 ○道徳の授業 ・「レッドカード」を読み、人として、してはいけないことについて話し合わせる。 ○家庭との連携 ・「わたしはまもる」「わたしはできる」の家庭学習カードをもとに、一日の終わりに、レッドカードが守れたかどうかを家の人に知らせさせる。
10月	20. モムンと ヘーテ 〔ともだちを おもう ころ〕 【主】B 友情、信頼 【関連】B 親切、思いやり	◎意見や考えの食い違いや感情のすれ違いがあっても、友達を助けようとする気持ちがあることが分かり、互いに支え合うことで友達関係をさらに深めていこうとする。 【理解、判断力】 友達でもときには対立したり、けんかしたりするが、謝ったり、許したりすることが大切であることが分かる。 【心情】 友達同士で謝ったり助け合ったりしている人の話に触れて、いいなあと思う心をもつ。 【実践意欲と態度】 友達を助けて、仲よくしている話を聞いて、自分も友達と仲よくしようとする。	1 仲よしの友達とはどんな関係だと思えるか考える。 2 「モムンと ヘーテ」を読み、友達を助けようとする心の変化について話し合う。 3 新しく学習したことをまとめる。	○道徳の授業 ・「モムンと ヘーテ」を読み、友達を思う心について話し合わせる。 ○他教科 ・グループ活動を組み入れ、話し合って活動する機会をつくり、積極的に関わりをもたせる。低学年なので、グループの人数は多くないほうが効果的である。 ○学級活動 ・「謝る」「許す」というキーワードを観点に、友達思いの人を見つける活動を行わせる。
10月	21. のこぎり山の 大ぶつ 〔ひとりひとりを たいせつに〕 【主】C 公正、公平、社会正義 【関連】B 友情、信頼	◎自分の好き嫌いにとらわれずに人に接しようとする。 【理解、判断力】 だれに対しても、公正、公平に接することの大切さが分かる。 【心情】 一人ひとりを大切にすることをいいなあと思う。 【実践意欲と態度】 一人ひとりを大切にして、生活していきたいと思う。	1 仲よくするということについて話し合う。 2 「のこぎり山の 大ぶつ」を読み、一人ひとりを大切にすることについて話し合う。 3 一人ひとりが大切にされるよさを味わう。	○道徳の授業 ・「のこぎり山の 大ぶつ」を読み、だれに対しても公正、公平に接し、一人ひとりを大切にすることのよさについて考えさせる。 ○学級活動 ・一人ひとりを大切にすることが大事なときや、「みんな仲よく」できて楽しかった経験について考えたことを発表させる。
11月	22. お月さまが みて いる 〔あかるい ころで〕 【主】A 正直、誠実 【関連】A 善悪の判断、自律、自由と責任	◎人には正直に生きようとする心があることが分かり、その心を自覚して明るい心で生活しようとする。 【理解、判断力】 人間は、うそをついたりごまかしたりする行為を恥と思う良心をもっていることが分かる。 【心情】 人の言葉に触発され良心に目覚め、正直に生きようとする姿に感動する。 【実践意欲と態度】 自分の中にも良心があることが分かり、その心を大切にしていこうとする。	1 正直であることに必要なことを考え、教材を読む視点をもつ。 2 「お月さまが みて いる」を読み、正直であることについて考える。 3 先生の説話を聞き、学んだことをまとめる。	○道徳の授業 ・「お月さまが みて いる」を読み、正直であることについて考えさせる。 ○朝の会・帰りの会 ・正直にできたことや正直な人を見つけて発表させる。 ○読書活動 ・明るい心で過ごした人の話を探してその本を読み、紹介し合ったり感想を伝え合ったりさせる。
11月	23. ジョゼクんと おりがみ 〔がいこくに したしむ〕 【主】C 国際理解、国際親善 【関連】B 友情、信頼	◎他国の人も日本人や日本の文化に親しみをもっていることを知り、自分も他国の文化に親しもうとする。 【理解、判断力】 他国の人も日本人や日本の文化に親しみをもっていることを知る。 【心情】 日本文化と交流を深めている他国の文化に共感をもつ。 【実践意欲と態度】 他国の文化に興味をもち、他国の文化にも親しもうとする。	1 興味のある外国について発表する。 2 「ジョゼクんと おりがみ」を読み、他国の文化や文化について考える。 3 他国の人と仲よくなるために大事なことをまとめる。	○課外 ・スポーツなどで活躍している外国人選手を話題に取り上げ、外国に関心をもたせる。 ・折り紙遊びをして、折り紙に関心をもたせる。 ○道徳の時間 ・「ジョゼクんと おりがみ」を読み、ブラジルと日本の文化の違いと文化の交流について理解を深めさせる。 ○課外 ・外国の暮らしや文化について本やネットで調べたり、詳しい人に聞いたりさせる。 ○日常生活 ・外国から来た人と話したりいっしょに遊んだりさせる。

月	教材名〔主題名〕 内容項目(主・関連)	主題のねらい	展開の概要	関連・連携のための指導計画例
11月	24. はたけの先生 〔お世話になっている人〕 【主】B 感謝 【関連】B 礼儀	◎日ごろからお世話になっている人々の知恵や技術のすばらしさを知り、日ごろのお世話に感謝する。 【理解、判断力】 自分たちの世話をしてくれる人は、すばらしい知恵や技術をもっていることを知る。 【心情】 年上の人の知恵や技術に触れ、尊敬の気持ちを持ち、お世話になっていることをありがたいと感じる。 【実践意欲と態度】 自分たちがお世話になっている人々に、尊敬と感謝の気持ちをもって接するようになる。	1 日ごろお世話になっている人について思い起こす。 2 「はたけの先生」を読み、感謝する心について話し合う。 3 気持ちを込めて自分がお世話になっている人に、お礼の言葉を書く。	○日常生活 ・日ごろお世話になっている人について意識や関心を向けられるように、年上の人々との縦の関係についてさまざまな場面で取り上げる。 ○道徳の授業 ・「はたけの先生」を読み、感謝する心について話し合わせる。 ○学級活動 ・お世話になっている人に「ありがとうカード」を作成して、感謝の気持ちを伝える感謝の集いなどを計画する。 ○生活科 ・生活科での昔遊びの学習で、地域のお年寄りや自分の祖父父母などに教えてもらう計画を立て、触れ合いを通して尊敬や感謝の念をもてるようにする。
11月	25. うつくしいもの、うつくしいところ 〔すがすがしいところ〕 【主】D 感動、畏敬の念 【関連】A 個性の伸長	◎美しいものに触れて感動し、すがすがしい心をもととする。 【理解、判断力】 美しいものに感動し、自分の心の中に美しいものを美しいとすることが分かる。 【心情】 自然の美しさ、絵画や写真の美しさなどに触れて、素直に感動することができる。 【実践意欲と態度】 すがすがしい心をもって生活していこうとする。	1 どのようなものを美しいと思ったか、想起する。 2 「うつくしいもの、うつくしいところ」を読み、美しいものや、美しい心について話し合う。 3 教師の説話を聞く。	○学校での日常生活 ・目に見えるものや、目に見えないが美しいものなどに触れる機会を多く設ける。 ○国語 ・美しい心などを扱った絵本などを読書の時間に読み聞かせをする。 ○道徳の授業 ・「うつくしいもの、うつくしいところ」を読み、美しいものや、美しい心について考えさせる。 ○日常生活 ・美しい心の話や、目に見えない美しさについて探すよう促す。 ○学級活動 ・見つけた美しい話や、美しいものなどを紹介し合わせる。
12月	26. おかあさんとのやくそく 〔よいとおもうことをすすんでおこなう〕 【主】A 善悪の判断、自律、自由と責任 【関連】B 友情、信頼	◎人間にはよいことを実現したいと願う心や、よいことをすると気持ちがよいと感じる心があることが分かり、よいと思うことを進んで行おうとする。 【理解、判断力】 よいことと悪いことを区別して行動する姿は、よいことを実現したいと願う心から生まれていることが分かる。 【心情】 よいと思うことを進んで行おうとする姿に心が動く。 【実践意欲と態度】 よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行おうとする。	1 メールがきっかけでけんかになった事例を知り、その理由を考える。 2 「おかあさんとのやくそく」を読み、よいことを行うことについて考える。 3 学んだことをまとめ、これからの生活で大切にしたいことを考えて発表する。	○道徳の授業 ・「おかあさんとのやくそく」を読み、よいことを行うことについて話し合わせる。 ○日常生活 ・よい行いができているか、家の人に聞いてこさせる。 ・よいと思うことをするとどんな気持ちになるか、実際にやってみよう促す。 ○学級活動 ・間違いを改めることができた人や、よいことをしている人を探して、帰りの会などで発表させる。
12月	27. かいらんばん 〔ちいさはななかよし〕 【主】C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 【関連】B 親切、思いやり	◎地域の人々が支え合って生活を豊かにしていることについて理解を深め、自分も地域の中で支えられて生きていることに喜びを感じ、地域に親しみをもととする。 【理解、判断力】 地域の人々が支え合って生活しているよさが分かる。 【心情】 自分も地域の中で支え合ったり心を通わせ合ったりして生活していることをうれしく思う。 【実践意欲と態度】 地域のよさが分かり、地域の行事などに進んで参加するなど、地域に親しみをもって生活していこうとする。	1 近所の人について話し合う。 2 「かいらんばん」を読み、地域の人と共に生きるよさについて話し合う。 3 自分の身の回りの地域での支え合いを考える。 4 学習のまとめをする。	○道徳の授業 ・「かいらんばん」を読み、地域の人たちとつながって生きるよさを理解させる。 ○日常生活 ・地域の回覧板やつながりについて家の人に聞く活動や、地域の活動への参加を促す。 ○学級活動 ・地域の活動に参加した様子や感想を報告させる。
1月	28. 小さなできごと 〔れいぎ正しく〕 【主】B 礼儀 【関連】A 正直、誠実	◎気持ちのよいあいさつ、言葉づかい、動作などに心がけて、人と明るく接する。 【理解、判断力】 あいさつや言葉づかいは、時・場所・相手によって異なり、使い分けが必要になることが分かる。 【心情】 明るくあいさつすると、その気持ちが相手にも伝わり、自分も相手も明るい気持ちになることが分かる。 【実践意欲と態度】 自分から進んで、元気にあいさつしようとする。	1 礼儀正しくすることの大切さについて考える。 2 「小さなできごと」を読み、礼儀正しくすることのよさや、それを支える心について話し合う。 3 礼儀正しくすることのよさについて話し合う。	○学級活動 ・あいさつ運動への参加や啓発に取り組む。 ○道徳の授業 ・「小さなできごと」を読み、礼儀正しくすることのよさや、それを支える心について話し合わせる。 ○日常生活 ・心のこもった言葉づかいや行為は、どんなものか考えさせて実際に練習させる。 ・あいさつ週間などでも、実際に礼儀を意識して取り組ませる。
1月	29. きれいに なった ずこうしつ 〔はたらく よろこび〕 【主】C 勤労、公共の精神 【関連】C よりよい学校生活、集団生活の充実	◎働くことによってみんなの役に立ち、自分もうれしくなったり、成長したりすることが分かり、みんなのために働くこととする。 【理解、判断力】 働いてみんなの役に立つ姿は、みんなの役に立てることへの喜びや、みんなの喜びをうれしいと感じる心から生まれることが分かる。 【心情】 そのような心から働いている人を見て、立派だなあと心が動く。 【実践意欲と態度】 そのような心を自覚し、みんなのために働いていこうとする。	1 北村さんはどうして掃除をしているかについて考える。 2 「きれいに なった ずこうしつ」を読み、働くことのよさについて考える。 3 自分たちは、どんな仕事をどんな気持ちでしようと思うかについて考える。	○学級活動 ・みんなで使う場所や物の使い方について話し合わせる。 ○道徳の授業 ・「きれいに なった ずこうしつ」を読み、働くことのよさについて話し合わせる。 ○学級活動、帰りの会 ・自分が決めた仕事をやった後の感想をカードに書いて掲示したものを見合せて、感想を発表させる。
2月	30. おりがみ名人 〔がんばる力〕 【主】A 希望と勇氣、努力と強い意志 【関連】A 個性の伸長	◎自分のやるべき勉強を、しっかり行うことの大切さが分かって感動し、それを自分の生活に生かしていこうとする。 【理解、判断力】 目標に向かって問いをもち、調べ、繰り返して成し遂げようと努力する姿は、よりよく成長していきたいと思う心から生まれてくることが分かる。 【心情】 よりよく成長していきたいと思う心から、自分のやるべきことをしっかりと行っている人を見て、すばらしいなあと感動する。 【実践意欲と態度】 よりよく成長したいという心を自覚し、目標をもって努力していこうとする。	1 本当に飛んでいるような鶴を2年生が折ったことに関心をもつ。 2 「おりがみ名人」を読み、目標をもって頑張ることについて考える。 3 自分の目標と、頑張るための秘訣をまとめる。	○国語科 ・漢字の書き方を学び、書き順に気をつけて練習させる。 ○算数科 ・足し算引き算を素早く正確にできるようにさせる。 ・九九を正確に暗唱できるようにさせる。 ○体育 ・跳び箱が跳べるように練習させる。 ・縄跳びでいろいろな技に挑戦させる。 ○道徳の授業 ・「おりがみ名人」を読み、目標をもって頑張ることについて話し合わせる。 ○朝の会・帰りの会 ・頑張りカードを作成し、子どもが頑張っていることを書かせ、友達からのメッセージをもらえるように朝の会や帰りの会で時間を取る。また、頑張っとうまくいったことなどを報告させる。
2月	31. とくべつな たからもの 〔あたたかい ところ〕 【主】B 親切、思いやり 【関連】B 感謝	◎幼い人や友達に温かい心で接して、困っていることを理解し、親切にすることで、自分も喜びを感じ、自分のできることを進んで行おうとする。 【理解、判断力】 幼い人や友達の様子を温かい心で見ること、相手がどんなことに困っているか、自分はどのように行動したらよいか分かるようになる。 【心情】 幼い人や友達に親切にすることで、人のために役立てた喜びが生まれることを知る。 【実践意欲と態度】 親切にすることの喜びを知り、これからも親切な行動をしようという意欲をもつ。	1 「温かい心」とはどのような心かを想像する。 2 「とくべつな たからもの」を読み、温かい心について話し合う。 3 親切や思いやりについて自分の体験を振り返る。	○生活科 ・1年生を案内する生活科での学校探検の授業を通して、上級生としての自覚をもち1年生の立場に立って行動するように意識づける。 ○道徳の授業 ・「とくべつな たからもの」を読み、思いやりや親切について話し合わせる。 ○学級活動 ・温かい心をあげたり、もらったりしたことを思いやりの木の実に書く活動を計画し、できたものを掲示して実践意欲につなげる。

月	教材名〔主題名〕 内容項目(主・関連)	主題のねらい	展開の概要	関連・連携のための指導計画例
2月	32. はかたにんぎょうの 名人 —こじま よいち— 〔わたしの よい ところ〕 【主】A 個性の伸長 【関連】A 希望と勇気、努力と強い意志	◎自分の特徴に気づき、大切にしようとする。 【理解、判断力】 自分のもつ特徴が分かる。 【心情】 自分の特徴を大切に思う。 【実践意欲と態度】 自分のもつ特徴を生かそうとする。	1 よいところは何か考え、教材を読む視点をもつ。 2 「はかたにんぎょうの 名人」を読み、自分のよさについて考える。 3 自分の特徴を探す。 4 自分の特徴を人に聞いて調べる。	○道徳の授業 ・「はかたにんぎょうの 名人」を読み、自分のよいところを伸ばして努力する大切さについて理解を深めさせる。 ○家庭との連携 ・自分が気づいていなかった自分の特徴を、家の人や身近な人に聞いて調べる活動に取り組みさせる。 ○学級活動 ・見つけた自分のよいところを、互いにランキングづけして発表させる。
重点主題：かがやく いのち				
2月	33. わたしの ものがたり 〔わたしたちの 生きる 力〕 【主】D 生命の尊さ 【関連】C 家族愛、家庭生活の充実	◎自分が成長したり生きて活動したりできるのは、二つの力があるからだと分かり、その力を発揮してかけがえのない生命を大切にしようとする。 【理解、判断力】 成長の記録を通して、自分の命には生きる力があることに気づき、「生きる力」には、「わたしの力」と「周りの人の力」があることが分かる。 【心情】 「生きる力」には、「わたしの力」と「周りの人の力」があることが分かり、自分のすばらしい生命を感謝し、大切にしたいと心が動く。 【実践意欲と態度】 自分にも「生きる力」があることを知り、「わたしの力」と「周りの人の力」について調べてみようとする。	1 自分が生まれたときの様子や赤ちゃんのときのことを知っていることを伝え合う。 2 「わたしの ものがたり」を読み、命がどのような力で大きくなっていったのかを話し合う。 3 みつけた「生きる力」から、「わたしの力」と「周りの人の力」について話し合う。 4 自分の物語をつくる活動について話し合う。	○家庭学習 ・自分の生まれたときや赤ちゃんの頃の様子について、事前に家の人への聞き取りをし、発表できるくらいのメモを取ってこさせる。 ○道徳の授業 ・「わたしの ものがたり」を読み、生きる力について話し合わせる。 ○生活科 ・P.134～135にあるみきさんの成長記録を参考にして、「わたし(自分)の力」と「周りの人の力」の二つの視点をいれた「生きる力」を大切にしながら、自分の成長の記録「ぼく・わたしのものがたり」を家の人との協力のもとにつくる活動を行わせる。 ○道徳の授業 ・「わたしの 力」を読み、命の尊さについて話し合わせる。
3月	34. わたしの 力 〔いのちを そだてる〕 【主】D 生命の尊さ 【関連】A 個性の伸長	◎自分が成長したり生きて活動したりできるのは、「もらった力」と「つくった力」があるからだを知り、これからもこの力を発揮して自分の生きる力を高めていこうとする。 【理解、判断力】 生きる力には、「つくった力」と「もらった力」があることが分かる。 【心情】 「つくった力」と「もらった力」が「わたしの力」になることが分かり、かけがえのない生命を大切にしたいと心が動く。 【実践意欲と態度】 自分にも「もらった力」と「つくった力」があることを知り、これからもこの力を発揮して自分の生きる力を高めていこうとする。	1 前時の「わたしのものがたり」を振り返り、生まれてから大きくなるまでの力を確認する。 2 「わたしの 力」を読み、みきさんにはどんな生きる力があるか話し合う。 3 自分の生きる力(つくった力・もらった力)を見つめる。 4 自分の力について発表し、話し合ったことをまとめる。	○道徳の授業 ・「わたしの ものがたり」を読み、生きる力について話し合わせる。 ○朝の会・帰りの会 ・前時でそれぞれが作成した「ぼく・わたしの ものがたり」を読んでおかせする。 ○道徳の授業 ・「わたしの 力」を読み、命の尊さについて話し合わせる。 ○家庭との連携 ・自分の「生きる力」をどんなことに使いたいか、家の人に伝えさせる。 ○朝の会・帰りの会 ・家の人と話したことを、毎日数名ずつ、朝の会や帰りの会で発表させる。
3月	35. さくらの木と いっしょに 〔しぜんと ともに あゆむ〕 【主】D 自然愛護 【関連】C よりよい学校生活、集団生活の充実	◎身近な自然に親しみ、植物に優しい心で接していこうとする。 【理解、判断力】 自然は生きており、人間は、その植物に対して友達のように温かく接して暮らしていることが分かる。 【心情】 人間が植物と友達のように温かく接している様子に触れて、いいなあ、すばらしいなあと心が動く。 【実践意欲と態度】 自分の身近な植物も生きていくことが分かり、その植物に温かい心で接していこうとする。	1 自分の身の回りの好きな自然を挙げて、そのわけを考える。 2 「さくらの木と いっしょに」を読み、自然との関わりについて考える。 3 自分の好きな花や木と、その理由を紹介する。 4 実際に校庭の木などに触れる発展的な活動について考える。	○生活科 ・植物を育てたり、生き物の世話をしたりする活動を行い、触れ合ったことを観察カードなどにまとめさせる。 ○道徳の授業 ・「さくらの木と いっしょに」を読み、自然との関わりについて考えさせる。 ○学級活動 ・実際に学校内の樹木を見に行き、その様子や感想を発表させる。 ・家族の自然観を調査して、お父さんやお母さんはどんな木が好きか、なぜ好きかなど、発表させる。
付録	36. ねこが わらった 〔すなおな ところで〕 【主】A 正直、誠実 【関連】A 善悪の判断、自律、自由と責任	◎うそをついたりごまかしたりすると、心が落ち着かなくなることを知り、素直にのびのびと生活しようとする。 【理解、判断力】 うそをついたりごまかしたりすると心が落ち着かなくなるのは、正直に生きたい気持ちがあるからだと分かる。 【心情】 うそをついたりごまかしたりしないで、正直に生きるよさに心が動く。 【実践意欲と態度】 うそをついたりごまかしたりしないで、素直にのびのびと生活しようとする。	1 ごまかそうとしたときにどんな気持ちになるか話し合う。 2 「ねこが わらった」を読み、正直のよさについて話し合う。 3 正直に過ごすために大切なことは何かを話し合う。 4 これからどのように生活したいか、まとめる。	○道徳の授業 ・「ねこが わらった」を読み、正直について考えさせる。 ○日常生活 ・自分がうそやごまかしをしないために心がけたいことや、自分が正直に生活できた体験をまとめさせる。 ○朝の会・帰りの会 ・心がけたいことや、実際にできたことを報告させる。
付録	37. 小さな ゆきうさぎ 〔しんせつに すると いい きもち〕 【主】B 親切、思いやり 【関連】B 友情、信頼	◎幼い人の気持ちを考えて温かい心で接し、親切にすることで、自分も喜びを感じ、自分にできることを進んで行おうとする。 【理解、判断力】 幼い人に温かい心で接することで、相手がどんなことをして欲しいと思っているかが分かる。 【心情】 幼い人に親切にすることで、自分もいい気持ちになることが分かる。 【実践意欲と態度】 親切の喜びを知り、これからも親切な行動をしたいと思う。	1 親切について考える。 2 「小さな ゆきうさぎ」を読み、親切について話し合う。 3 本時で学んだ「親切」についてまとめる。	○道徳の授業 ・「小さな ゆきうさぎ」を読み、親切について考えさせる。 ○日常生活 ・相手の気持ちを考えて親切にすることを意識づける。 ・親切にして喜んでもらえたことを、ノートやワークシートに記録させる。 ○学級活動 ・朝のスピーチなどで、記録したことを報告させる。
付録	38. おとす 人、ひろう 人 〔だれもが きもちよく〕 【主】C 規則の尊重 【関連】A 節度、節制	◎みんなで使う物を大切に、気持ちよく過ごせる社会を築こうとする。 【理解、判断力】 みんなで使う物を大切にすることは、地域社会のために大切なことだと分かる。 【心情】 地域社会の人の気持ちを考えて、みんなで使う物を大切にすると、自分もうれしい気持ちになる。 【実践意欲と態度】 身の回りにあるみんなで使う物をきまりに従って使い、大切にしようとする。	1 みんなで使う場所にごみが落ちていたらどうするか考える。 2 「おとす 人、ひろう 人」を読み、話し合う。 3 みんなで使う物に対して気をつけたいことを考える。	○生活科 ・通学地域の絵地図を作成させ、絵地図の中にあるみんなで使う物に関心をもちさせる。 ○道徳の授業 ・「おとす 人、ひろう 人」を読み、みんなが使う物を大切にすることについて考えさせる。 ○学級活動 ・地域の中のみんなが使う物を見つけて、どのように使っているか話し合わせる。 ○日常生活 ・校舎内や校庭、地域にあるみんなが使う物を大切に使うよう取り組みさせる。
付録	39. 一まいの シャしん 〔生きる 力〕 【主】D 生命の尊さ 【関連】C 家族愛、家庭生活の充実	◎人間は元気に生きようとする力をもっていることや、多くの人たちに支えられながら生きていくことが分かり、命を大切にしようとする。 【理解、判断力】 人間には、けがや病気を治して元気に生きようとする力があり、それは自分にも備わっていることが分かる。 【心情】 自分は、家族や周りの人たちに支えられて大きくなっていることを知り、ありがたいなあと心が動く。 【実践意欲と態度】 他者に支えられながら生きていく自分を自覚し、命を大切にしようとする。	1 元気でいるとできることについて話し合う。 2 「一まいの シャしん」を読み、元気でいられるのはなぜか考える。 3 保護者からわが子へ宛てた「命の手紙」を聞く。	○家庭との連携 ・保護者に学級通信などで授業の意図を伝え、生まれたときのことや、病気がなったときのこと、子どもへの望みなどを手紙に書いてもらう。 ○道徳の授業 ・「一まいの シャしん」を読み、生命の尊さについて考えさせる。 ○家庭 ・どんなときに「生きる力」を感じたか、家の人に伝えたり、「生きる力」を大切に頑張りたいことを「げんきカード」に書くように促す。 ・保護者に学級通信などで授業の意図を伝え、子どもたちが書いた「げんきカード」に励ましの言葉を書いてもらうように伝えておく。

月	教材名〔主題名〕 内容項目(主・関連)	主題のねらい	展開の概要	関連・連携のための指導計画例
付録	40. しあわせの王子 〔うつくしい ころ〕 【主】 D 感動, 畏敬の念 【関連】 B 親切, 思いやり	◎人の心の美しさに感動し, 自分もそのような人になろうとする。 【理解, 判断力】 困っている人がいたら助けずにはいられない心をもった人は, 心の美しい人であり, 人が幸せになると自分も幸せを感じる人であることが分かる。 【心情】 心の美しい人の話を聞いて, 感動する。 【実践意欲と態度】 そのような幸せな人になりたいと思う。	1 心の美しい人について話し合う。 2 「しあわせの王子」を読み, 王子の心の美しさについて話し合う。 3 美しい心についてまとめる。	○国語科 ・図書の時間などに心の優しい登場人物が出てくる話などを紹介し, 人の心の美しさについての意識をもたせる。 ○道徳の授業 ・「しあわせの王子」を読み, 王子の心の美しさについて考えさせる。 ○学級活動 ・「人が喜ぶことが自分の喜びになる」という心をもった人や, 美しい心のお話を調べる活動を行い, 発表させる。